



おおすぎ

山形市立南山形小学校
令和7年10月27日
第6号
校長遠藤克裕

「きずなのバトン」でみんながつながった運動会！

今年も厳しい残暑が予想されたため、熱中症対策として運動会の開催日を10／8(水)に設定しました。今年の運動会スローガンは、

～本気で挑戦～ 笑顔でつなごう きずなのバトン



でした。9／22(月)の団結式から運動会当日までこのスローガンを掲げ、中間休みは応援練習に、体育の時間は短距離走や団体種目の練習に、放課後は係活動にそれぞれが本気で挑戦しながら取り組んできました。この2週間の中で、速く走るにはどうすればいいのかと考えたり、団体種目で同じミスを繰り返してしまったり、リーダーとして活動をうまく進めることができず思い悩んだりしてきたのかもしれません。それでも本番まで、本気で挑戦し続けることそのものが、一人一人の大きな力になってきました。

私は開会式のあいさつで、「～本気で挑戦～」を達成することは『自分自身を大事にする』ことにつながり、「笑顔でつなごう きずなのバトン」を達成することは『まわりの人達を大事にする』ことにつながるという話をしました。少し難しかったかもしれません、みんなでスローガンが達成できるように願いを込めました。

プログラムが進むにつれ、赤白とも白熱した競技が展開されていきました。後半の中学生短距離走・高学年騎馬戦・応援合戦Ⅱを残してほとんど点差がない状況で、騎馬戦は3回戦までもつれ込む大熱戦となりました。そして最後の応援合戦Ⅱも、甲乙つけがたい最高の出来でした。

閉会式で審判長から成績発表があり、本当に僅かの差で白組に軍配が上がりました。それは、喜びや悔しさなど様々な感情が、子どもたちから一気に解き放たれた瞬間でもありました。私も込み上げてくるものを抑えるのが難しかったです。ほんの僅かの点差ですが、それだけに白組は十分勝者に値すると思います。そして、ライバルの勝利を讃え、惜しみない拍手を贈る赤組の姿は、まさに『きずなのバトン』でみんながつながったことを



体現する証だったと思います。

閉会式の講評で私は裏面を綴ります『笑顔』になれなくとも、もう少し時間がかかるかもしれないけれど、それでも必ず笑顔になります。このことは絶対に保障します。」と話しました。あれから3週間近く経っていますがどうでしょうか。学校での様子からは十分に「笑顔で」のスローガンが達成できていると思っているのですが、ぜひご家庭でも子どもたちの確かな成長を実感する笑顔になっているか、よ～く見ていただければと思います。

最後になりますが、平日の早朝から応援に駆け付けてくださったご家族の皆様、地域の皆様、閉会式後のお疲れのところ会場の後片付けにご協力くださいましたPTA保育部の皆様に心より感謝申し上げます。深く心に刻まれる感動の運動会でした。ありがとうございました。

133周年を祝いました～10月1日の創立記念集会から～

10/1(水)に、創立133周年を祝う創立記念集会を行いました。学校運営協議会の委員の皆様にもお越しいただき、全校児童といっしょにお祝いをしました。

集会の中で、この春学校の敷地に戻ってきた門柱と校歌の歌詞について話をしました。

左の写真にある通り、この門柱は大正15年春に高等科を卒業された先輩方が卒業記念として建ててくださり、その後昭和19年に再建してくださったということがわかります。

次に校歌の歌詞についてですが、



まず1番の中に、
『平和の光 さしそめて』という歌詞がありますが、
これは『平和の光（太陽）がさしこんてくる』という意味です。
また、2番の中にも、
『世界の平和 うち建てん』とありますが、
これは『世界の平和を創り上げていこう』という意味です。

現在の校歌は、昭和18年に第12代吉田秀蔵校長先生が当時の同窓会長さんに依頼し、実際に出来上がったのは昭和21年なのだそうです。

門柱を再建した昭和19年は、戦争の真っ只中で食料や様々な物資が不足しており、毎日の暮らしを送るにも大変なご苦労があったことと思います。そんな中でも学校のために、当時の先輩方がご努力していることがよくわかりました。また、校歌が戦時中から終戦後にわたって作られたことや、歌詞に込められている当時の方々の願いからも、平和の礎を築いてほしいと語り掛けているようにも感じました。

どちらも80年も前の出来事なのですが、決して色褪せるものではありません。私達は

日々の生活が安心して送られていることに感謝しながら、先輩たちの願いをこれからもつ
ないでいけるようにしなければならないと、思いを新たにする集会となりました。